

島本町立第二中学校は、今年度から、大阪府のスクール・エンパワーメント推進事業【確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校】（市町村が主体となり、それぞれの課題に取り組み、その成果を町内に普及・発信する基幹校）に指定されており、今年が初年度となります（3年計画で指定）。本校および島本町全体の学校において、学習面の課題は「基礎的な知識・技能の定着」であると全国学力・学習状況調査や生徒アンケート等の結果から読み取ることができます。本年度は、「対話」を意識した授業をベースに、生徒同士の意見交換、発表、まとめの場面を通じて学びを深め、学力向上に繋がっていきたいと思います。教職員一丸となって、保護者のみなさまのご協力も得ながら、教育活動を進めていく所存です。1年間、よろしくお願いします。

「確かな学び」とは？

「確かな学び」とは、単に教科書の内容を暗記したり、テストで良い点数を取ったりするための勉強ではありません。文部科学省の学習指導要領などでよく使われる言葉ですが、本質的には「身につけた知識や技能を、実生活や新しい課題に対して、自分なりに活用・応用できる力」のことを指します。この概念は、大きく次の3つの要素で構成されています。

「確かな学び」を構成する3つの要素

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

全ての土台となる部分です。読み書き、計算、史実、科学の法則など、正しく理解して使いこなせる知識をしっかりと身につけることです。

○思考力・判断力・表現力等の育成

知識を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか？」を考え（思考）、自分でどうすべきかを選び（判断）、それを他人に分かりやすく伝える（表現）力です。

○主体的に学習に取り組む態度

自ら進んで学ぼうとする意欲や粘り強く学びに向かう姿勢、学んだことを自分の人生や社会にどう生かすかという姿勢のことです。



往來の「詰め込み型」との違い

視点	往來の学び (詰め込み型)	これからの 「確かな学び」
ゴールの設定	テストで正解 を答えること 	現実の課題 を解決すること 
学びの姿勢	教師の話をじっと聞く (受け身) 	自分で問いを立てて調べる (主体性) 
覚えた知識	テストが終わると 忘れてしまう 	応用が効くので ずっと残る 

一言で言えば、「確かな学び」とは、「知っている (Know)」レベルを超えて、「使える・創り出す (Use/Create)」レベルへと自分を高めていくプロセスのことです。

今年度の本校の研究テーマ

自分の考えを持ち、学びを深め、表現できる生徒の育成
～対話を通して学びを広げる～



今後も、適宜更新してまいります。

島本町立第二中学校の取組に、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。